

名前	年組
----	----

# 北斗星 空き家

♪つたのからまるチャペルで――と始まる「学生時代」は故ペギー葉山さん以降、多くの歌手により歌い継がれてきた。□に紅葉したつたに彩られた洋館はさぞ風情があることだろう。

ただ、つる性の植物が茂りつぱなしの空き家となれば全く別物。詩人の故茨木のり子さんの作品「廃屋」は「つるばらは伸び放題」で、「戸さえなく」なった「山中の廃居」の朽ち果てたありさまを容赦なく描く。

15年ほど前、仕事で県境近くの山村集落を訪ねた。山あいの①を維持し、清流を活用して②栽培や③養殖にも取り組んでいた。集落まで車で往復した際、所々に廃屋を目にして胸が痛んだ。集落の高齢化はさらに進んだことだろう。

秋田市郊外でも最近、「売物件」の札が立つ空き家をよく目にする。一方で立て札こそないが、全体の様子から人の出入りが途絶

えていることが察せられる家屋も珍しくない。市街地に④が出没する昨今、全く手入れされていない庭の草むらに野生動物が潜んでいるいかと不安がよぎる。

1人暮らしの親が介護施設に入所後、実家を10年余りも空き家にしていた知り合いもいた。空き家にはそれぞれ事情があることはよく理解できる。

茨木さんの詩は「人が／家に／棲む／それは絶えず何者かと／果敢に闘っていることかもしれぬ」と結ばれる。高齢化の波を受け、果敢な闘いを続けられなくなる家屋は増え続けるだろう。地方自治体だけでなく、国の問題として知恵を絞りたい。

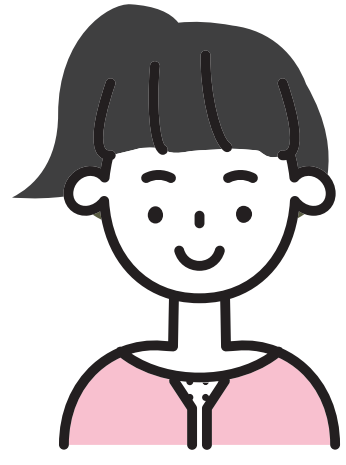
- ※【つる性】自立せずに他のものに巻き付いたり、吸着したりして伸びる植物の性質。
  - ※【容赦】手加減をすること。控えるにすること。
  - ※【維持】そのままの状態を持続けること。
  - ※【養殖】魚や貝、海藻などを人工的に育て、増やすこと。
- △秋田魁新報2025年9月29日付より。記事は手直ししています▽

- 記事の中の□に当てはまる季節を書きましょう。

□
- 記事の中の①～④の■の部分に当てはまる言葉を、それぞれ次のア～オから選び、記号を書きましょう。

ア クマ    イ マグロ    ウ 田んぼ    エ イワナ    オ ワサビ

① □    ② □    ③ □    ④ □
- 6年生の高石さんは、記事を読んで自分なりに考えたことを、次のようにスピーチしました。当てはまる言葉を、記事の中から指定された字数でぬき出しましょう。



私は、茨木のり子さんの詩の「絶えず□□□と果敢に闘っている」という表現が印象に残りました。□□□とは、人が住まなくなったり、捨ててしまったりした家のことだと思います。「何者か」がいつも攻めてきていて、それを人の営みが防いで□□を守っているのかもしれませんが。私の家族が暮らす家や近所の空き家に対する見方が、少し変わったような気がしています。